椙山女学園大学研究論集　第54号（社会科学篇）2023

短期現場実習を含む学内演習プログラムの作成と課題(1)

朴 信永*・伊藤博美*・後藤加代子**
上野智恵子***・小林豊子****

The Making and Its Issues of an On-Campus Nursery Practice Program Set (1)

Shinyoung PARK, Hiromi ITO, Kayoko GOTO, Chieko UENO and Toyoko KOBAYASHI

キーワード　新型コロナウイルス感染症，学内実習プログラム，保育実習，ピアサポート
COVID-19，on-campus training program，nursery practice program，peer support

1．はじめに

本稿は，A大学で2021年度実施した保育所実習の学内代替プログラム，特にその経緯および実践の詳細を把握し，その効用および課題について整理するものである。

2020年度A大学においては，新型コロナウイルス感染症（COVID-19）対策としてほとんどの授業で遠隔授業を実施したが，2021年度の授業実施方針においては，原則として対面授業とすることとなった。対面授業を実施する際には，後述の「令和3年度対面授業実施における新型コロナウイルス感染症対策」を徹底することが義務づけられ，緊急事態宣言（大学への休校要請を伴うもの）が発令された場合や，学内で感染者クラスター等が発生した場合に備え，対面授業から遠隔授業に切り替えられるように準備することが求められた。次節で詳述するが，保育士養成課程における学外実習については，感染拡大のなか，実習の延期，実習先の変更では対応できず，学内での代替プログラム実施による対応を迫られることとなった。

そこで本研究では，COVID-19まん延防止等重点措置の適用下において，止むを得ず実習代替プログラムに参加した学生たちが得られた学びについて検討することを目的として，以下を課題とする。第一に，2021年後期COVID-19の拡大を受け，急遽計画・実施された実習代替プログラムを概観し，特にピアサポートの効用と課題を検討する。第二に，これらを活かし今後の保育実習指導の在り方について考察する。

*　教育学部　子ども発達学科
**　椙山女学園大学非常勤講師
***　椙山女学園大学附属保育園園長
****　椙山女学園大学附属椙山こども園園長

2．学内演習プログラム作成までの経緯

2020年度コロナ禍において実習では，現場体験の重要性を再度認識した上で以下のように感染状況に対応した。保育実習（保育実習ⅠA（2年次）・同Ⅱ（3年次））では，公立が46園で実習生の3割弱，残りが私立園で7割弱であった。9月上～中旬，同時期に実施する保育実習ⅠAとⅡが，感染状況を受け，4つの自治体10名分が受け入れ中止となり，私立園に変更し日程を延期して実習を行った。また園との協議から5つの自治体の14名分，その他私立4園5名分が日程を再調整して実習を行った。具体的には，実習先との交渉・協議以外では，ガイドラインの整備，実習授業用の書類等の電子化，遠隔授業体制の整備と資料作成，健康管理表と行動記録表の追加に伴う実習日誌の改訂，感染時の対応フローチャートの作成の整備が行われた。学生による事前訪問および教員による巡回指導は電話等にて行うことを原則として依頼した。

対外的には，新型コロナウイルス感染症に対する取り組みを学部長名にて各実習園に向けて発信した。まず大学では遠隔授業を基本とした体制で進めていることを報告した上で，学生側から実習を見合わせる要件を明示した（表1参照）。

表1　実習見合わせ要件

感冒様症状（鼻汁・鼻閉，咽頭痛，咳）があるとき。
熱感・悪寒や強い倦怠感（だるさ）があるとき。
呼吸困難（息苦しさ）があるとき。
自宅で当日朝に体温を測定し37.0℃以上のとき。
2週間以内に新型コロナウイルス感染者と接触した可能性が高いとき。
家族等の感染が確認されるなど濃厚接触者に特定されたとき。
海外渡航から帰国後2週間が経過していないとき。

コロナの感染対策に関する学生への指導は，不要不急の外出やアルバイトを控えるよう要請する形をとって行われた。個別的な対応として，施設実習において2,3施設より実習開始前のPCR検査の実施，実習中の公共交通機関による移動の禁止が求められたため対応した。PCR検査は金銭的にも学生負担が大きいことから学部の臨時予算によって支出された。

2021年度は2020年度の体制をもとに，新型コロナウイルス感染症に伴うA大学全体の2021年度授業実施方針に基づき，2年次対象の前期科目「保育実習指導ⅠA」も対面授業で実施された。対面授業実施における新型コロナウイルス感染症対策の概要は次の通りである（表2参照）。

同年度保育実習ⅠA（2年，94名対象）の実習先は，当初，公立実習園（実習生人数，以下同様）が70園（74名），私立実習園が19園（20名）であった。予定通り9月の2週目から2週間実施された実習園は，21園（23名，24.5％）であった。その中で公立園は，15園（16名），私立園は6園（7名）である。1か月以上延期された実習園は，68園（71名）であり，その中で公立園は55園（58名），私立園は，13園（13名）である。ほとんどの実習先において10月以降から実習が再開され，年度内に終了しているが，N市公立園5園（6名）については，市内におけるCOVID-19の感染状況の急拡大等により「まん延

表２　令和3年度の対面授業実施における新型コロナウイルス感染症対策の概要

マスクおよびフェイスシールドの着用並びにサーキュレーターによる換気等の感染拡大予防方策を講じる。 教員および学生は授業期間中の毎朝，検温および体調のチェックを行い，不調が見られる場合は出勤・登校を見合わせる。 教員および学生は，キャンパス内では必ずマスクを着用し，キャンパス施設に出入りする際には手指消毒を徹底する。 教室内では，使用可能な座席を明確にするとともに，座席指定とし，毎回必ず学生の出欠を確認する。 教員・学生間および学生同士の不要な接触や会話は禁止とする。 講義・演習等の授業形式にかかわらず，教員および学生は全ての対面授業時にマスク及びフェイスシールドを着用する。

防止等重点措置」が講じられ翌年１月21日から当面の間，実習中止の通知が届いた（2022年１月20日通知）。その後，実習再開は行われず，年度内全面中止（振替実施無し）の通知が届いたため（2022年１月29日通知），急遽，保育実習実施基準（厚生労働省，2015）および「新型コロナウイルス感染症の発生に伴う保育士養成施設の対応について（厚生労働省，2020）」に基づき，保育実習ＩＡ代替プログラムを計画・実施するに至った。

３．保育実習ＩＡの代替となる演習プログラムの実施と学生の学び

⑴　保育実習ＩＡ（保育所）の目標および実習の内容

２年次の学生は，原則的に１年次に幼稚園におけるプレ実習を経験しており，プレ実習において学生は，幼稚園での子どもの生活や保育の実際を観察し，子どもの姿や遊び，保育者の役割・援助等の一端に触れ，学ぶことになる。しかし，2021年度２年次生の場合，COVID-19の影響により，前年度のプレ実習も演習プログラムにより代替された状況であった。

保育実習ＩＡ（保育所）は，保育所における保育の実際について体験的に学ぶ段階であり，以下の目標が達成されることを目指している。これらは，「指定保育士養成施設の指定及び運営の基準について」（厚生労働省雇用均等・児童家庭局長発，平成27年３月31日）に示された，次の保育実習ＩＡの〈目標〉に対応するものである。

・保育所の役割と機能や保育士の職務等について実際に即して理解する。
・子どもとの具体的な関わりを通して，乳幼児の姿や発達について学ぶ。
・実際に保育に参加し，乳幼児の保育内容や保育指導の方法・技術を体験的に学習する。
・保育士として必要な資質・能力・技術を身につける。
・保育を学ぶ学生の，問題意識の構築や専門的学習の必要性を知る機会とする。

このような目標に基づき，乳幼児の保育指導の方法・技術を学び，最終的には保育指導案を作成し，保育者としての立場に立って保育を行うことを体験的に学習する。

具体的には，配属された保育所において２週間，見学・観察・参加の段階を経て部分実習を行い，以下のことを体験的に学ぶ。

1．保育所実習の目的　2．実習生の心構え　3．実習計画の実際　4．実習日誌の作成　5．保育所の役割　6．保育士の職務　7．保育士の社会的役割　8．保育士の専門性　9．乳幼児の姿や発達について観察し理解を深める　10．保育計画の実際　11．保育指導案の作成　12．保育所で行われているプログラムや諸活動に実践的に関わる　13．保護者や地域住民との関わり　14．保育士に求められる資質，能力，技術に照らし合わせ自己課題を明確化する　15．自己評価およびまとめ

⑵ 演習プログラムの内容

厚生労働省は年度を超えての実習実施を奨励しているが，愛知県内の実習については，例年，前年度に県内の保育士養成校の間で調整するため，すでに次年度分がほぼ確定している状況であった。またA大学において，年度を繰り越しての実施は，すでに実習を終えた学生に比べて，該当する学生への身体的・精神的負担が過度に大きくなることが明白である。保育実習ⅠAの3年次への繰り越しは，保育実習Ⅱが9月に実施されるので，前期中に実施しなければならないが，3年次5月に2週間の幼稚園実習が予定されていることに加え，新型コロナウイルスの感染状況の見通しが立たない中であり，改めて新たに依頼することが難しい状況であった。

そこで，上記の現状，課題を踏まえ，2月に延期して実施が予定されていた保育実習ⅠA（該当者6名）については，厚生労働省の事務連絡「実情を踏まえ実習に替えて演習または学内実習等を実施することにより，必要な知識及び技能を習得することとして差し支えない（厚生労働省子ども家庭局保育課，2020）」に基づき，学内保育実習担当者らで話し合った結果，学内演習プログラムで実施することになった。

演習プログラムの構成は次の通りである。

Ⅰ　15コマ分の対面授業（子ども理解や保育士の職務内容の理解について実施）
Ⅱ　3日間の模擬保育（対面授業として6コマ分。事前準備，事後の振り返りを含む。コメンテーターは外部の保育者）
Ⅲ　2日間の参加実習（実習先はA大学附属こども園・保育園）

以下，上記の構成とする理由を示す。通常，保育実習ⅠAは，保育所等（幼保連携型認定こども園等含む）での10日間（80時間）の実習を必須としている。今回，新型コロナウイルス第6波のさなかであり，現場での実習は可能な状況ではない。しかし，可能な限り年度内での現場での経験を保障するために，感染が落ち着くと期待される2月に，附属こども園・保育園において2日間（1日8時間×2日＝16時間）の参加実習を実施し，また，この事前事後指導に各2時間を要するため，参加実習には計20時間を充て，それ以外の60時間を学内における演習プログラムに充てる。

なお，保育実習ⅠA（該当者6名）と保育実習Ⅱ（該当者1名）は異なる学習目標を据えているが，今回の演習プログラムは対象学生の数も限られることから，模擬保育については合同で実施し，保育の経験豊かなA大学非常勤講師に指導を依頼する。授業1コマにおいて学生1～2名の模擬保育を実施する。6コマは対面で実施，9時間を費やすが，事前準備，事後の振り返りを含めて，3日分30時間の時間数に相当する。

演習の60時間のうち上記の模擬保育に30時間を充て，残りの30時間について，演習プ

ログラムを立案する。演習プログラムの単位数との整合性については，A大学設置基準第二十一条の三（一の授業科目について，講義，演習，実験，実習又は実技のうち二以上の併用により行う場合については，その組み合わせに応じ，前二号に規定する基準を考慮して大学が定める時間の授業をもって一単位とする）を踏まえる。これにより，集中講義と同様に15コマの授業とする。以上から，2週間の現場実習内容に対応する学内演習プログラムの中身を次のようにまとめることができる。

保育実習ＩＡの内容	学内演習プログラムの内容
1．保育所実習の目的 2．実習生の心構え 3．実習計画の実際 5．保育所の役割 6．保育士の職務 7．保育士の社会的役割 8．保育士の専門性	DVD教材，はじめての保育実習（第1巻保育のこころとマナー，第2巻実習体験を通して学ぶ）を視聴し，保育所実習の目的，実習生の心構えなどについて話し合う。 実習1日目，2日目，7日目，10日目の様子をみることで現場の様子を確認し，保育士の様々な役割を考えながら，実習計画の実際に触れる。 4日間の対面授業中，3日間4年次の先輩たちとの交流の時間を設け，実践体験とその解説をしてもらう。加えて，実習で求められること，実習を通して鍛えられること，部分実習（模擬保育）などについてアドバイスをもらう。
4．実習日誌の作成	DVD教材，映像で学ぶ保育所（認定こども園）保育実習のための「指導案」と「日誌」の書き方を用いる。1日の保育実習の様子を視聴し，学生自ら日誌を作成し，実際現場で作成されたものと比較する。
9．乳幼児の姿や発達について観察し理解を深める 10．保育計画の実際 11．保育指導案の作成 12．保育所で行われているプログラムや諸活動に実践的に関わる 13．保護者や地域住民との関わり 14．保育士に求められる資質，能力，技術に照らし合わせ自己課題を明確化する 15．自己評価およびまとめ	事例を用いて，子どもを理解するための観察，記録，省察，評価という一連の過程を経験する。 3日間の模擬保育の実施（事前に作成し，4年次先輩からのアドバイスを受け，さらに修正したものを各実施日の前日に提出する。模擬保育実施後は，担当者および外部のコメンテーターよりコメントを頂く。） 2日間の参加実習（附属保育園，附属こども園にて実施。事前訪問および実習時の反省，記録の作成，部分実習等を含み，内容の面で可能な限り通常の実習に近づける。）

⑶　学生の気づきと現場からの指導

何度となく実習が延期になり待ち続けた学生たちは，実際，いつ実習がスタートしてもよいように毎日，健康状況申告書と行動歴を記録していた。このような学生たちの気持ちを汲むべく，演習プログラム前後，途中において感想カードを書いてもらった。

倫理的配慮については，趣旨を説明するとともに，回答の一部を論文作成に引用することを伝えた。回答は強制しないことや自由記述は，個人が特定されることのないよう取り扱うことを説明し，回答が提出されたことをもって同意が得られたものと判断した。

演習プログラムを始める前に簡単なオリエンテーションを受けた後，現状に対する学生たちの受け止め方に関する記述は次の通りである。

・実習が中止になって不安な気持ち。2年の他の学生が実際に体験したことができない。
・3年生での実習が初めてになる。それを次の実習のとき，分かってもらえるのだろうか。「たくさん失敗していい2年生」。今まで準備してきた園での実習ができない残念な気持ち。
・実際の園生活を生で見たかった。現場の先生から学びたいことがたくさんあった。
・次の実習で上手く出来ないのではないか。他の子は実習できているのに大丈夫か。1年次の観察実習も中止になっていて，ますます園について知る機会がなくなり不安。
・実習を終えた子たちに遅れをとってしまうし，経験がないとその分これからの学びに活かすこともできないので怖い。
・来年の保育実習は，責任実習など，2年生以上のことが求められるのに，そのレベルにもいけていないという結果になりそうでどうしよう……という気持ちになりました。3年次幼稚園実習では，保育実習ででてきた課題を活かしたいが……
・4月から3年生になるが，保育所実習に行けないまま幼稚園実習に行くことへの不安を感じた。また，実習に行った人たちと経験の差が生まれることへの焦りも感じた。
・とにかく今後の実習が不安。直接子どもと触れ合いながら，自分なりに挑戦するということができないので，大丈夫かなという気持ちが一番。また，施設と保育園どっちで働くかとても迷っていて2年生のうちに両方体験して3年生までにある程度就職先を決めたかったのにそれができないのが残念。
・他のほとんどの子たちが実習を終えている中で，他の子たちに追いつくことができるか心配。次の実習が上手くできるか不安。

ほとんどの学生が，実習が全面中止になることへの強い不安を述べている。前期に行われた実習事前指導中，担当教員が実習に対する不安感の高い学生たちに繰り返し伝えていた「たくさん失敗していい2年生」を書いていた学生は，失敗できる機会すら奪われた気持ちを記しているように思われる。実習自体への不安な気持ちにも増して，その機会が失われ，落胆する学生たちの要望や相談などにさらに身近な立場での細やかな対応が期待されると判断し，4年生との交流の時間（ピアサポート活動）を3回実施した。2年次の学生たちが先輩との話し合いから気づいたことは次の通りである。

・ペープサートや手袋シアター，手遊びなどを実際に見せて頂いて，すごいなと思った。実習に行けない分，次の実習につながるような準備をしたいと思った。
・自己紹介カードなどを実際に見せてもらえたことにより，どんなことを事前に準備するべきなのかを具体的に知ることができてとてもよい時間でした。また，実際に実習でやってみて子どもたちが喜んでくれた手遊びや絵本などを教えてくださったので，私もそれをしっかり練習して試してみたいと思いました。そして，手遊びは子どもたちが知っているものより初めてやるものの方が興味を示してくれるということがわかったので，有名な手遊びだけではなく，他のものもたくさん練習しておきたいなと思いました。

・実習でどのような自己紹介が子どもたちに注目してもらえるか，どんな絵本を読むと興味をもってもらえるかなど，実際の経験から教えていただいたので，とても学びになりました。そして私も実際にやってみたいなと思ったので，機会があればやってみたいです。また，他国籍の子どもだけがいるクラスでの実習をされたお話しを聞いて，自分も全く知らない世界だったので驚きました。
・たくさんお話を聞くことができて疑問を解決することができました。
・ずっと気になっていたことを教えて頂き，とてもためになりました。スケッチブックは自己紹介だけでなく，スケッチブックシアターにも使えて，白いページに子どもがお絵描きしてくれたりしてとても便利であることを知ったので早速買いに行こうと思いました。保育実習と幼稚園実習の違いも教えて頂き，驚くことが多かったです。
・今回，先輩のお話を聞いて感じたことは，自分の意志や考えがとてもしっかりしているということです。ただ実習をこなしてきたわけではなく，‘自分だったらこうしたい’という考えをしっかりともって実習に臨んでいたということがすごく伝わりました。二つしか年が変わらないというのに，今の自分よりとてもしっかりしていて驚いたし，とても刺激をもらうことができました。また，絵本や手遊びを選ぶときは，その日の行事にあったものがいいなど，たくさんのアドバイスを頂くことができとても勉強になりました。私も 2 日間の実習までにたくさん用意しておきたいと思いました。
・先輩方のお話を聞いて，実習への取り組み方，手遊びや手袋人形の工夫などを知ることができてよかったです。そして，不安だったのですが，お話を聞くことで軽くなりました。
・先輩方のお話をきいて，実習前，実習中に大切なことを聞くことができてとても勉強になりました。また，実際にペープサートや手袋人形を見せて頂けて作ってみようと思いました。
・実習をよりよいものにするためには，各自がしっかりと事前に準備することがとても大切だと思いました。ピアノも本当に苦手で正直逃げている自分がいたのでコツコツ頑張りたいです。

ピアサポート活動とは，悩んだり，困ったりした問題を抱いた学生に対し，仲間同士の対人関係を利用した支援活動を行うものである（永井他，2020；中出他，2004）。今回の演習プログラムでは，就職活動を終え，卒業式を控えている 4 年生 9 名の協力を得て，一度に 3 名ずつプログラムに参加してもらった。2 年生 6 名を三つのグループに分けて，2 名の 2 年生グループに一人の 4 年生がサポーターとして入り，3 グループをまわって実習に関する質問に答える形式であった。このように上級生から下級生への支援を通して，担当教員による指導から徐々に仲間同士で支え合うという進め方は，意識を高める上でも知識や技術を身につけるうえでも有効な方法である（川上・吉田，2015）。

永井他（2020）では，ピアサポート活動への参加により，主体的な学習態度が高くなる傾向が見られたと報告している。本プログラム内で，4 年生が実習で体験したことを 2 年生へ伝えることは，具体的な経験に基づいているだけにわかりやすく，貴重な情報として受け止められている様子がうかがえた。

本プログラムでサポーター役を務めてくれた 4 年生の感想は次のとおりである。

・2年生の指導案についてこれまでの実習経験等からアドバイスでき，模擬保育の時に役立ってくれると嬉しいなと思いました。特に，話し合いでは2年生の子が2人とも自分のやりたい保育のイメージが具体的にあったので私も2人の保育を想像して具体的にアドバイスできたと思います。また，2年生の子達の制作や導入の題材がとても面白そうだったので実際に自分も保育でやってみたいと思いました。最後に，2年生の子たちに対して色々アドバイスができたのはこれまでの実習経験の賜物であり今後もこの経験を現場で活かしていきたいと思いました。
・自分の実習経験前と比べて2年生の子は自分の子どもとやりたい事が明確であり，それに対する考えもしっかり持っていたので驚きました。どのようなゲームにするか，製作にするか様々な工夫をしながら考えられており良かったと思います。私もこれまで実習を経験してきた中で予想できる子どもの姿やゲーム，製作の進め方等をひとつの意見として伝える事ができたので，よりイメージを膨らませほしいと思います。自分が知らなかったゲームも今回知ることができ，一緒に話し合いながらルールややり方を深めることができたので私自身も勉強になりました。就職してからも活かしていきたいと思います。
・春から3年生になる子たちが実習をまだ1度も経験したことがないということで今回参加させて頂くことになりました。後輩の子たちは指導案について色々なことを聞いてくれる中で私が初めての実習に行く時はどうだったのか思い返してみると全然出来ておらずとりあえず先生の授業でやったファイルを頼りにしていました。でも，後輩の子たちは自分で色々調べたりして，私とは違い，沢山考えられていました。先生も仰っていましたが，実習が延期になりいつになるかと不安の中で準備は大変だったとは思いますが，実習前にあれだけ考えて，先輩からのアドバイスも真摯に聞いてくれている姿を見ると是非子どもたちの前に実際に立って実習が出来るといいなと思いました。その園，クラス，子どもたちによって様々ではあると思いますが準備を念入りにすればするほど予想できないことが起こっても対応出来るのではと思いました。後輩の子たちの話を聞くと自分も実習をしていた時の事を思い出し，これから就職するにあたり不安しかないですが実習で学んだことを私も活かして頑張っていきたいと思いました。

石川・井上（2012）によれば，ピアサポート活動を通して，下級生は緊張・不安，抑うつ，怒り・敵意，疲労，混乱の得点が有意に減少し，上級生にとっても効果があり，将来教員や保育士といった職業をもつためのよりよい支援になる。本プログラムに参加した4年生たちの記述からもサポートする側として，エンパワメント（中出他，2004）されることで自分に自信がつき，卒業後の就職先でも活かしたいという気持ちがよく表れている。

2年次学生の1週目の演習プログラムを終えての感想は次の通りである。

・このプログラムが始まる前は，ほとんどの子は2週間実習に行けているのに，私はいつ実習ができるのか，卒業できなくなったら，次の幼稚園実習に影響が出たらなど，さまざまな不安がありました。しかし，指導計画や記録の書き方を再確認することができ，より深く学ぶことができました。また，4年生の先輩方に部分実習で計画していることに対して多くの助言を頂き，より具体的な援助の仕方や導入，まとめまでの流れを理解することができました。実習記録の書き方や部分実習だけでなく，ゼミや就活，実習前の準備など不安に思っていたことのほとんどを解決することができました。私は，2週間の実習では学べないことを知れたので，プログラムを受けることができてよかったです。
・1週目を終えて，始まる前は不安で仕方なかった気持ちが少し和らぎ，楽しく参加できるようになりました。このプログラムが始まる前は，同じメンバーの顔も知らなかったこともあり，プログラムで何をするんだろうなど，とても緊張していて不安ばかりでした。しかし，1

週間を終えて，6人で作業をしてお昼ご飯を食べて過ごしていく中で距離も縮まり楽しめるようになりました。また，保育の‘ねらい’や‘内容’について学んだり，先輩方のお話を聞いたり，質問したりなど，実習では得られないこともたくさん知ることができてとても貴重な時間でした。模擬保育などまだ不安なことも多くあるけれど残りも頑張りたいです。
・実習がなくなってしまい，周りの子との差や現場で子どもたちと触れ合い，感じることができないことで，自分は2年生で全く成長できずに終わってしまうのではないか，と思っていましたが，1週間プログラムを終えてみて，指導案の書き方，記録の書き方がとても勉強になり，自分でも書けるのかも，と思えるようになり，また，先輩がいらっしゃったことで，実際の記録を見ることができ，気をつけることや書き方，園によっての違いなどを知ることができてとても良い経験となりました。そして，模擬保育も，何をしていいのか全くわからない状態でしたが，先輩方が担任保育士さんのように沢山のアドバイスをしてくださって，本当に学ぶことが多くありました。プログラムで少しでも力をつけることができたと言えるよう2週目も頑張りたいです。
・このプログラムが始まる前は，とにかく不安でした。実習ができない不安，プログラムは何をするのだろうという不安，話せる友達が一人しかいない不安……。しかし，始まって，今回の保育実習の内容がわかり，“他の子たちにはできない経験”をさせて頂いたおかげでとても気持ちが軽くなりました。最もよかったのは，先輩に指導案を見てもらい，アドバイスをして頂いたことです。本物の保育者さんに教えて頂いたようで，想像もつかなかった点に気づいて，改善策を一緒に考えてくださいました。毎日少しずつ違うプログラムで，保育について考え直し，‘ねらい’や‘内容’が前より上手く書けるようになったと思います。この6人と先生で4日間プログラムできたことを，とても嬉しく思います。
・実習が中止になり，このプログラムになると聞いたときは実際に子どもとの関わり方，援助の仕方，保育者の役割などを見て学べないということで不安しかありませんでした。ですが，記録や指導案の細かな書き方や先輩たちから今やっておくべきことなどを詳しく聞ける機会があり，参加実習では学べない，とても大事なことが学べた気がしてとてもよかったです。そして，何より部分実習の指導案を見せて，アドバイスをもらうという時間は，たくさんの実習を経験し，色々な学びをした4年生から，注意すべき点，時間配分，声かけなど教えてもらうことができ，とても有意義で自分のためになる時間でした。この経験を活かして指導案作成はゆっくり丁寧にやっていこうと思いました。模擬保育頑張ります。
・動画を見て指導計画や実習記録を書く活動では，実際に書くことで実習中何に注意して，何に注目すべきなのかを感じることができた。3月の実習や，今後の実習に活かしたいと思った。先輩のお話を聞いたり，質問をしたり，模擬保育の計画にアドバイスをいただいたりすることを通して，実際に実習に行き，実践し，時には失敗することで成長できるのだと感じた。できる限りの準備をしても失敗することはある，失敗した方が成長できると教えて頂いたので，失敗を恐れすぎず，積極的に取り組みたいと思った。先輩との交流はなかなかできない経験で楽しかった。

2週目の演習プログラムでは，3年次学生2名を含め，計8名で3日間の模擬保育を実施した。前週まで作成・提出した指導計画をもとに，一人40分程度の部分実習を実施，残りの学生たちは子ども役を演じた。終了後は，担当教員2名と外部講師1名のコメントおよび学生たちとの質疑応答が続いた。特に，保育の現場経験が豊富な先生方からの指導内容としては，対象とする子どもたちの発達に合う進行であるかどうか，合わないところはどのように変更するとよいか，時間配分の適切性や，一緒に活動できない子，不安な

子，理解できているか分からない子への言葉かけや配慮などに関するものであった。

模擬保育後，学生たちのコメントは，次の通りである。

・実習は足し算という言葉が印象に残った。最初から内容を詰め込むのではなく，色々準備をしておいて，子どもたちの様子を見ながら，小出しにしていくと，子どももワクワクしたり，時間の調節ができたりすることがわかった。
・自分目線ではなく，子ども目線で使いやすく，作りやすいものを準備することを意識したいと思った。
・保育者は，子どもを見る時，一人の子どもだけに集中するのではなく，全体をよく見ていなければならないことを実感した。
・自分自身，現場で実際に保育をしたり，部分実習をさせていただくことがなかったので，子どもの姿をどのように想像したらいいだろうか，よく分からず，この模擬保育でも「このような場合はどう声かけしたら？」ということが多かった。この機会を通して，子どもの姿を直接見て，より現場を知りたい気持ちが強くなりました。とても良い経験になりました。

プログラムのまとめとして用意された附属こども園・保育園での参加実習では，通常の実習と同じように，事前訪問から開始された。現場実習は，わずか 2 日間だったが，両日とも保育カンファレンスと実習反省会が実施された。実習生は両日とも日誌を書くとともに，通常 1 週間後， 2 週間の実習終了後に作成する振り返りノートを「 1 日目を終えて」と「実習を終えて」に変更，作成し，各クラスの担任の先生から所見を書いてもらった。短い期間であったが，全ての実習生が子どもたちの前で手遊び，絵本の読み聞かせ，紙芝居を実践する機会が与えられた。

園では， 2 日間の実習受け入れに臨むにあたって職員間で次のことを共有していた。わずか 2 日間の実習であることから有意義な実習となるように各クラスで実施するカンファレンスを充実させること，質疑応答を充実させて，質問に答えるだけにせず，前後の事情や背景について詳しく伝えることである。実習反省会で，学生は，子どもと関わった具体的なエピソード等から，「子ども主体の保育」「情緒的な関わり」「職員間の連携」などの感覚を理解しようとしていることが伝わった。保育者は学生の学びとして理解が不足していそうな意見，感想に対しては補足するようにした。

保育実習の受け入れ 2 日間について，保育者としては，コロナ禍ということもあり，園児が園外の人と極力接する日にちが少なかったことはよかったが，通常， 2 週間での指導が 2 日間ではできず，評価が難しかった。

2 日間の現場実習後，学生たちの感想は次の通りである。

・ 5 歳児はしっかり実習生のお話を聞いて，順番や約束を守るということができるが， 4 歳児は自分が気に入らないことがあると泣いてしまったり，いじけてしまいお話する聞いてくれなかったりと年齢に合わせて対応を変えていくことの重要性を実感した。
・ 2 日間の実習を通して，保育者のことばには意図があるということを学びました。大学の授業でも保育者の声かけ一つひとつに意図があることは学んでいましたが，現場で実習をして，実際に声かけの意図を考えることでより学びが深まりました。 2 週間の実習がなくなって残念だったが， 4 年生の先輩との交流や模擬保育など，このプログラムでしかできない経験ができたのでよかった。特に， 4 年生の先輩とお話をすることで，不安や疑問を解消することができ

たので，よい経験ができた。こども園での実習では，2日間という短い期間だったが，実際に現場に行くことで学んだり，感じたりすることができた。この学びを次の実習に繋げていきたい。
・プログラムに参加して，今，私が強く思うのは，プログラムに参加することができて本当に良かったなということです。最初，実習がプログラムへと変更になったのを知った時は，プログラムへの緊張や実習が中止になった不安などが入り混じり，とても複雑な気持ちでした。しかし，保育のねらいや内容の書き方について詳しく学んだり，4年生の先輩方から実習や指導計画についてアドバイスを頂けたりして，実際に模擬保育を行ったり，様々な場面で意見を交換し，話し合いをした2週間はとても濃い時間となったし，たくさんのことを学べた貴重な時間となりました。また，初日にみんなと顔を合わせた際，今まで全く面識のなかった子もいてすごく緊張をしました。しかし，このプログラムを重ねていくなかで，とても仲を深めることができたと感じています。また，このメンバーで集まることができたらいいなと思います。最後に，実習が中止になってしまってから，プログラムを考え，実行してくださった先生方，ありがとうございました。
・実習の延期，中止などがあり，本来のような実習はできなかったが，2日間で保育者の動きを見て，細かい配慮を想像し，カンファレンスで教えて頂いたことで今まで思いつかなかった配慮がされていると気づいた。また，子どもと積極的に関わりコミュニケーションをとることができた。
・実習反省会では，各年齢で様々な関わり方があることを理解できました。昨日の保育カンファレンスの際に，子どもに注意をするときの方法として，子どもの目をよく見て，「ダメ」ということばではなく，「違うよ」ということばや，どうしてしてはいけないのかの理由をつけてしっかり伝えることを学びました。プログラムでは，指導案や記録の書き方を改めて学ぶことができ，実習時に大変役に立ちました。4年生の先輩方に実習だけでなく，手遊び，指導案，就職，ゼミなど様々なことを教えて頂き，貴重な経験ができて嬉しかったです。初めての模擬保育では緊張と不安で頭が真っ白になりましたが，自分が子どもの姿を想像できていなかったことに気づき，改めて考え直す必要があるとわかりました。初めての実習で不安と緊張でいっぱいでしたが，最終的には「楽しい」という気持ちが一番大きく，また来たいなと思いました。大学では学ぶことができないことを，身をもって体感することができ，多くの学びを得ることができました。初日は，実習記録と「1日目を終えて」，指導案の考察に追われ，1時間半しか寝られませんでしたが，一緒にこども園に行ったメンバーの頑張る様子を見て，私も頑張ることができました。コロナ禍で通常とは違う実習になりましたが，私自身，このメンバーで実習をすることができて本当によかったです。代替プログラムを考えてくださった先生方，本当にありがとうございました。
・短い期間でしたが，実際に保育園という場で子どもたちと関わり，保育園の機能やニーズ，1日の流れや保育者の声かけ，援助の仕方を知り，とても充実した2日間となりました。しかし，部分実習や1日実習がなく，指導案を立てるなどの経験は，模擬保育でしかできなかったので，来年度はやりたいと思いました。今回，2週間である保育実習が，学内と2日間での実習となり，来年度の自分は大丈夫なのか，とても不安でしたが，学内での模擬保育や2日間での実習で学ぶことがとても多くありました。自分が模擬保育をした際は，製作のパーツの大きさや種類を子どもの指の発達，主体性などを含めて考えなければならず，また，絵本の長さも年齢をもっと知って選ばなければならないとわかりました。何より，人前に立ってやるという経験ができてよかったです。
　2日間の実習では，子どもたちとの実際に関わり，声かけの仕方や環境構成，流れなど現場に入らないと生で感じられないようなものを学びました。子どもたちと一緒に遊ぶなかで発達を感じたり，気持ちに寄り添うことの大切さも学びました。とてもよい経験となりました。

4．まとめと考察

本研究の目的は，コロナ禍での学内演習および保育現場・実習生との協働的な実習プログラムについて報告し，その状況において学生が何を感じ，何を学び，あるいは何を学べなかったかを知ることで今後も続くとされているコロナ禍におけるよりよい実習のあり方を検討することであった。本研究を通して，以下の点について考察することができた。

第一，学内演習プログラムならではの学びが得られるよう，多様な発見，気づきを促す取り組みを用意することで，プログラムを無事終えることができた。担当教員と密接な関わりを保ちつつ，4年次の先輩との交流が功を奏し，参加者の満足度も高くなったのではないかと考えられた。コロナ禍の影響により同級生の顔もよくわからない状況の中で6名で2週間，同じ空間で学び，先輩たちと3日間3回話し合うことで不安・緊張は柔らぎ，前向きな姿勢で取り組むことができたと，推測した。このようにピアサポートの効果が見られたことで，今後の実習指導にも活かされるようにしたい。

第二，保育者を養成する立場として，現場実習の意義およびそのあり方について再考する機会となった。実習は，専門職養成に欠かすことのできない教育カリキュラムであり，現場と養成校が密に連携をとって展開していくことで，より充実したものとなる（矢藤，2022）。今回の実習プログラムでは，子どもとじかに触れ合う経験（石川，2021），すなわち，実践的学びの保障（仲本，2022）をめざして，2日間の現場実習を含めた。その点を実習先の保育者方に十分に理解して頂き，通常の実習よりも細やかで丁寧な実習指導および反省会を実施してくださったおかげで，学生たちの学びがより深まったと言える。実際，学生たちの振り返りノートには，感謝の言葉が多く述べられていて，附属園の存在，保育者のきめ細かいご指導・配慮についてしっかりと認識し，実習体験の貴重さをこころから感じたように思われた。仲本（2022）も述べているように，そのような思いを根底にもった実習生には，当たり前に実習に臨んでいた時期の実習生以上に，学び得た専門的知識および技術が深く浸透していくのではないかと思えてならない。

最後に，本研究は，対象者が2年次6名のみであり，学生の学びと実習代替プログラムの課題を明らかにするには限定的といえる。しかし，コロナの世界的流行の中，初めて実施した学内演習プログラムにおける保育実習での学生の学びを明らかにしたことは意義があると考える。本研究を通して，実習担当教員同士の協力体制はもちろん，実習園と養成校の協働による保育者養成の重要性が示唆された点は，今後のよりよい実習に活かしたい。

引用文献

伊藤一統（2021）コロナウイルス拡散防止対応に迫られた状況下での実習運営対応に関する調査研究　令和2年度一般社団法人全国保育士養成協議会学術研究助成課題研究報告書

厚生労働省雇用均等・児童家庭局長（2015）指定保育士養成施設の指定及び運営の基準について　雇児発0331第29号

厚生労働省子ども家庭局保育課（2020）新型コロナウイルス感染症の発生に伴う保育士養成施設の対応について　令和2年6月15日

大海由佳・前徳明子（2020）映像で学ぶ保育所（認定こども園）保育実習のための「指導案」と「日誌」の書き方　新宿スタジオ
社団法人全国保育士養成協議会（2004）ビデオライブラリーはじめての保育実習　新宿スタジオ
石川洋子・井上清子（2012）上級生から下級生へのピアカウンセリングの試みⅡ　文教大学教育学部紀要，46，69−76.
川上輝昭・吉田文（2015）保育職を希望する学生への就職支援―ピアサポートの試みを通して―　名古屋女子大学紀要，61，345−354.
田中孝治・森川綾香・石川健介（2022）コロナ禍におけるピアサポート型オンラインコミュニケーション活動の運営を担った学生の成長　認知科学，29(2)，222−242.
中出佳操・今野礼子・青池美紀・川村道夫（2004）学生相談の現状とピア・サポート活動の活用に関する研究　北海道浅井学園大学短期大学部研究紀要，42，227−234.
永井暁行・廣川和貴・佐藤淳哉・中村和彦（2020）ピア・サポート活動への参加と主体的学習態度の関連　北星学園大学文学部北星論集，57(2)，13−19.
矢藤誠慈郎（2022）保育実習に関する保養協の取り組み　保育の友，70(10)，8−12.
仲本美央（2022）コロナ禍における実習が与えた“気づき”の芽　保育の友，70(10)，13−16.
石川昭義（2021）保育所実習の現状と課題―本学学生は実習の意義をどのように捉えているか―　子ども教育学科論集，1，59−73.